

書窓

No.456

2023.5

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561
兵庫県揖保郡太子町鰯
1310 番地 7

Shoso

Tel (079)277-1580
Fax(079)277-5684

子どもの本だな 114

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

王さまの竹うま

ドクター=スース さく・え
わたなべ しげお やく (偕成社)

バートラム王様は、海から国を守る堤防並木の世話のため、朝早くから働かなければなりません。木の根を食べる鳥を千匹の猫に見張らせ、自らも木を1本ずつ調べます。王様の唯一の楽しみは、仕事の終わった夕方に竹馬で城をかけまわることでした。

ある日、王様の竹馬遊びを快く思わない家臣が、竹馬を盗み出しました。王様は元気をなくし、仕事に力が入りません。猫たちも怠け始めました。鳥が並木の根を食い荒らし、海の水が町に流れ込んできました。王様を心配したお小姓のエリックが竹馬を取り戻しましたが、家臣に追われ王様に近づけません。エリックは仕立て屋にとびこみ、帽子とガウンと竹馬で背高のつばに変装し、家臣を出し抜くと、王様のもとにかけつけました。

黒の濃淡と赤のみの絵が、竹馬にのった王さまや登場人物の表情をいきいきと伝えます。読んでもらえば5歳くらいから楽しめます。

(竹内)

小さなスプーンおばさん

アルフ=プジョイセン 作 大塚 勇三 訳
ビョールン=ベイル 画 (学研プラス)

ひとりのおばさんが、ノルウェーの田舎にご亭主と2人で暮らしていました。ある朝目を覚ますと、おばさんはティースプーンくらいに小さくなっていました。でも、おばさんにはその日にやる事がどっさりありました。掃除、洗濯、お昼の準備…おばさんはまず、ネズミの穴の前でチュウチュウ鳴き、ネズミを呼び出すと「すっかり掃除しておくれ、そうしないとネコにいいつけてやるから」。ネズミはすみずみまで掃除してくれました。汚れたお皿はネコに、洗濯は雨に任せます。（「おばさん、小さくなる」）

おばさんの体は、時も場所も構わず小さくなりますが、おばさんは少しも慌てず、てきぱきと機転を利かせて事を解決していきます。物語は奇想天外ですが、素朴でおおらかです。おばさんにご亭主の人柄も魅力的で読む人の心をひきつけます。続編に『スプーンおばさんのぼうけん』『スプーンおばさんのゆかいな旅』があります。読んでもらえば、5～6歳から楽しめます。

(八木)

5月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	



▶ ×印は休館日

- ・ 祝日の振替休館
5/1、5/8、5/10
- ・ 館内整理日
5/31、6/30

※閉館時は返却ポストをご利用ください。

▶ 開館時間：

10:00～18:00
(金曜日のみ 10:00～20:00)

『書籍修繕という仕事』

刻まれた記憶、思い出、物語の守り手として生きる

ジェヨン 著

牧野 美加 訳 原書房 48,232頁 2022年12月刊 2,000円 (請求記号)022.8

本書は、書籍修繕家である著者が、今まで修繕してきた本とのエピソードや思いを綴ったエッセイ。

美術大学卒業後、グラフィックデザイナーとして働いていた著者は、仕事を辞めアメリカの大学院に留学し、ブックアートと製紙を専攻した。同時に、指導教授の勧めで働き出した大学図書館付属の書籍保存研究室で「書籍修繕」と出会い、時間の蓄積から生じる「本の破損」に魅せられていく。3年半、多種多様な紙に触れ、本への理解を深めていった著者は、帰国後、ソウル市内に「ジェヨン書籍修繕」を構えた。

最初の依頼は、損傷の激しい上下2巻セットの大きな国語大辞典だった。幼少の頃から親しんだこの本を、これからも使えるようにに丈夫にして欲しいという依頼だった。表紙に圧力をかけ平らにし、背を金槌で叩いて整え、表紙のクロスを貼り直し、題字を色彩し、破れた頁をつなぎ合わせ、シミを薬品で除去する。様々な過程を経て、本は本来の姿を取り戻していく。「子どもの頃の友だちがまた戻ってきたみたいですよ。」大学図書館では機械的に修繕し、感情はほぼ無関心、無感覚だった著者にとって、この依頼人の言葉は、書籍修繕家としての姿勢を変えた一言だった。

代々受け継がれる聖書、家族の形見の本、希少な漫画本、カビだらけの結婚アルバム……。店を訪れる本にはそれぞれの物語があり、依頼人にとっては「世界に1冊だけの本」だ。だから、修繕中は常に失敗できない緊張感がある。持ち主の話聞き、本に刻まれた時間の痕跡や思い出の濃度、破損形態を隅々まで観察、収集し、その本に必要な修繕をする。依頼人が望めば、落書きやシミも思い出として消さずに残す。著者は、その本が生きてきた物語「本生」に耳を傾け、尊重しながら、依頼人の望む姿に本を修繕していく。

書籍修繕に対する著者の思いが穏やかな文章で綴られている。紹介された本の修繕前後を文と一緒にカラー写真でたどれるのも楽しい。修繕してまで持っていた本があるということはなんて幸せなことだろうと羨ましく思い、思わず自分の本棚を眺めた。

(池之上)

5・6月の移動図書館（いずれも木曜日です）

5月	6月					
11日	8日			福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
18日	15日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
25日	22日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20	塚森 地域内 15:00~ 15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20

< お知らせ >

毎週土曜日に
「おはなしの時間」
を開いています。
👤 4歳～小学2年生
11:00～11:30
👤 小学3年生～中学3年生
11:30～12:00
5月のおはなしは、「おかあさんのたんじょう日」「けものたちのないしょ話」「ぐらぐらの歯」などを予定しています。詳しくは、館内掲示または図書館HPをご覧ください。

地下水

図書館には新しい本が次々と入ってくる。大人の利用者は自分のお気に入り、作家を見つけて予約を入れたり、職員が「読めますか？」とすすめたりする。気さくな利用者は返却時に「これ良かった」と感想を言う。一方、子どもたちに新しい本となると、いつもきている顔見知りの子どもたちにもたいてい知識の本になってしまう。けれど、たまに、これはいいな!と思う絵本や物語の本が入ってくる。先日、そんな本にめぐりあい、何人かにすすめてみた。返却のときに4歳のTくんが「おもしろかった!」と再度もちかえる。6歳のRちゃん、小学3年のSちゃん……。幼い子から年代を問わず楽しめるようだ。ずっと前から出ていた絵本なのだが、この度の編集で、ページ割が変わってページが増え、とてもわかりやすくなり、物語の楽しさが伝わったのだ。あらためて、編集の力を知った気がした。本の題名は『ウィリアムの子ねこ』(マージョリー・フラック作・絵まさきるりこ訳 徳間書店) また、こんな本にめぐりあいたい。

(西村)